

〒639-3111 吉野町上市133 e-mail:syakai\_e@town.yoshino.lg.jp

TEL(32)5268 FAX(32)5689

※内容に変更等があれば、文字ニュースもしくは次号の生涯学習情報でお知らせします。  
※ご不明な点や申し込みについては、上記までご連絡ください。

## 「夏休み体験教室」を吉野さくら学園で開催しました

### 8/18 「生き物たちの活動のあとを 見よう!」

環境省吉野管理事務所 アクティブ・レンジャーの土屋佳秀さんを講師にお迎えして、学校周辺の自然観察をとおりして吉野の自然の豊かさを学びました。

Children's Voices



もっと色々な動物の足あとが見たくなった。

家の周りにはどんな生き物があるか知りたくなった。



### 8/25 「タイコでつながり、 ひびきあおう!」

木の楽器やタイコのワークショップを開催する岩見賢太さんを講師にお迎えして、タイコを自由にたたき音とリズムで気持ちが一つにつながった演奏会を楽しみました。

Children's Voices



いろんな楽器を鳴らして楽しかった。

みんなの音が響き合って面白かった。



今後も「よしののよさ」を体験する教室を開催していきます。お楽しみに!

## 本に親しむひとときを・・・(10月の開館日)

場 所	吉野町中央公民館 図書室		りゅうもんぶんこ・こどもライブラリー
	吉野町中央公民館 5階		吉野町中央公民館 1階
10月 開館日	毎週水曜日	毎週土曜日	毎週水曜日
	5日・12日・19日・26日	1日・8日・15日・22日・29日	5日・12日・19日・26日
開館時間	13時～16時30分	9時～12時 / 13時～16時30分	10時～12時 / 13時～16時30分
備 考	図書の貸し出し:1人5冊まで 貸出期間:2週間 ※町内在住・在勤の方が対象です。		※詳しくは、こども園・小学校で配布される「こどもライブラリーだより」をご覧ください。

記載している各事業については、吉野町新型コロナウイルス感染症対策本部等の指示により、変更・中止となる可能性があります。

## 「スマホ教室」開催



「スマホを持っていないけど興味がある」「スマホは初心者」という方を対象にスマホの使い方講習会を実施します。

- ▶日時 10月11日(火)・12日(水)・20日(木)  
10時30分～12時30分  
13時30分～15時30分

※詳しい開催スケジュールは広報よしの9月号の折り込みチラシをご覧ください。

▶開催日時 吉野町中央公民館 第3研修室

### ▶内容

- 入門編 タッチパネルの操作方法  
文字の入力方法  
基礎編 インターネットの検索方法  
アプリの取り方  
特別編 LINEの使い方  
デマンドバスのネット予約方法

▶定員 各回20名(先着順) ▶受講料 無料

▶対象 吉野町にお住まいの方

▶持ち物 スマートフォン(お持ちでない方には受講中、スマートフォンを貸出します。)

▶申込 町中央公民館の窓口・電話にて受付  
(土日祝日を除く、8時30分～17時)

## 吉野町在住の方が出場 南月人さん 大西陽愛さん

第75回近畿高等学校陸上競技対校選手権大会  
兼第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会

6月16日鴻ノ池陸上競技場(奈良市)で開催された上記大会に南月人さん(3000m障害)、大西陽愛さん(200m、4×400mリレー)が出場しました。共に1年生で今大会も好記録を残しましたが惜しくも全国大会出場とはなりませんでした。今後出場する大会で自己ベスト更新、全国出場を期待しています。



◀南さん

【予選記録】  
3000m障害  
9:59.62

【予選記録】  
200m  
26.03  
4×400mリレー  
4:07.33

▶大西さん



## 壬申の乱から1350年 「壬申の乱と吉野」話の小箱連載⑤

幽玄の世界(能)で語られる壬申の乱

お能というと、なんだか古臭く、あるいは難しいと感じる人も多いかもしれません。伝統芸能だのなんだのといわれると難しく感じてしまいがちですが、ようは600年もの間、日本人が親しんできた日本オリジナルの演劇です。

そんなお能にも、壬申の乱がでてくる作品があります。たとえば『国栖』は、吉野を出発して「壬申の乱」にいとんだ大海人皇子(浄見原)が主人公の物語。浄見原を国栖のおじいさんが追手からかくまったという物語です。

また、2015年に復活した『吉野琴』では、浄見原が吉野山の袖振山で天女をみた話が登場します。「そもそも花月の折には天女が天から下ってくるものです。ふつうの人には見えないけれど、天と地につうじる浄見原がひく琴の音にひかれたのでした。」このお話は、今も宮中でおこなわれる五節舞の由来のお話として、京都の御所などで紹介されていたりします。

最後に『二人静』をみましょう。「昔浄見原の天皇、大友の皇子に襲はれて、かの山に踏み迷ひ、雪の木陰を、頼み給ひける。桜木の宮、神の宮滝、西河の滝、われこそ落ち行け、落ちては波は帰るなり。」やっぱ、浄見原が登場します。お能でも「壬申の乱」は重要な要素として語りつがれてきたのです。

吉野歴史資料館 学芸職員 中東 洋行